

1	日程	2017年8月26日・27日
2	地域	マレーシア（クアラルンプール） 会場：ホテル Capri
3	担当者	近藤彩（麗澤大学） 池田玲子（鳥取大学）
4	海外講演の形態	第4回 KL 協働実践研究会 第1日目 講演とワークショップ 第2日目 研究発表会
5	主催（招聘・科研）	主催：KL 協働実践研究会 共催：科学研究費補助金研究基盤 B 一般 「外国人労働者の定着と協働を目指す受け入れ環境の構築」 課題番号 17H02354 代表：近藤彩（麗澤大学） 科学研究費補助金研究基盤 B 一般 科学研究費補助金研究基盤 B 一般 「学びの関係性構築をめざした対話型教師研修」 課題番号 10338759 代表：館岡洋子（早稲田大学）
6	テーマ（講演タイトル）	Collaborative Learning for Business Communication in Japanese Company 講演1（近藤彩：麗澤大学）： <i>Collaborative Teaching and Learning for Business Communication</i> 講演2（池田玲子：鳥取大学）：「日本の大学の現状 –アクティブラーニングとピア・ラーニング–」 講演3（Ms Yeoh Lee Su, Universiti Sains Malaysia）： <i>Investigating Japanese Language skills' proficiency among Malaysian Japanese Speaking Graduate Employees in Japanese Related Companies in Malaysia</i>
7	内容の概要	講演1（近藤）： <i>Collaborative Teaching and Learning for Business Communication</i> グローバル社会の人材育成として日本語教育では、仕事の現場で「仕事ができる」「他者と協働できる」能力の育成が課題であり、日本語教育では具体的に何ができるかについて提案した。SWOT分析の活動とケース学習の学習者体験を行った上で、この活動の在り方について議論した。 講演2：（池田）：「日本の大学の現状 –アクティブラーニングとピア・ラーニング–」

		今、日本の大学教育では参加型、主体的学習者育成のためにアクティブラーニングの実施が強調されている。協働学習の概念はこのアクティブラーニングをより具体的な学習概念として提示するものであるとした上で、ケース学習のためのコースデザインの提案を行った。価値観の違いに気づくための活動から協働して問題解決をする課題への展開を示した。
8	参加者	第1日目：18名 マレーシア人日本語教師 8名 第2日目：8名 マレーシア人日本語教師 4名
9	担当者の内省	<p>KL 協働実践研究会ではこれまで定期的に年1回のセミナーを実施し、今回で第4回目の開催でした。2012年にKL 協働実践研究会設立から今回までの全ての運営および企画実施を中心になって担ってこられたのはマラヤ大学の木村かおりさんでした。木村さんはマラヤ大学の日本人日本語教師として、学内の同僚教師や管理部門への働きかけも熱心に取り組んでくださいました。マラヤ大学だけでなく他大学や日本語教育機関への呼びかけの成果もあり、年次セミナーには必ず新しいメンバーを加えてくださいました。こうした経緯を経て、KL 協働実践研究会は今後も持続性と発展性の期待できる研究拠点となっていくことが期待されます。</p> <p>今後は、木村さんの後任者としてKL 協働実践研究会の代表役を担ってくださる方も決まりつつあります。</p> <p>今回はKL 代表の木村さんの日本帰国直前の日程に設定してしまったこともあり、3名の講師が宿泊したホテルの部屋（ファミリータイプ）のリビングにて開催しました。教室会場の雰囲気とはちがって、距離感や生活感のある場での講演・WSは、リラックスした学びの場を提供できたように感じられました。</p> <p>今回が初めての参加となる方のことも考慮し、講演では協働の概念の確認部分もいれました。ピア・ラーニングの実践紹介、体験学習として、近藤さんによる「ケース学習」のワークショップを行いました。参加してくださった皆さんは、あの短い活動時間の中で、ケース教材を通じて仕事の異文化トラブルの要因について深く議論することができました。私たち日本人講師たちにとっては、予想外の視点も出され、気づきも多い場となりました。</p> <p>講演者3のYeoh Lee Su,さんの発表では、ペナンの大学で日本語を学んだマレーシア人が日系（関連）企業でどの程度日本語</p>

		<p>を使っているかの調査結果を発表され、教室実践を研究対象とした研究を紹介してくださいました。</p> <p>2日目の実践報告では、マレーシアの日本語教師たちの日ごろの実践を知ることができ、日本からの提案を今後どのようにこうした現場に生かしていられるのかが期待できる発表でした。</p>
10	次回への課題	<p>次回は代表者交代後の初めての研究会開催となるので、日本からのサポートをより強めると同時に、他の拠点からの参加も得られるような開催ができるようにしたいと思います。</p>
11	研究会の様子	